

## アドバイス・レポート

平成 18 年 11 月 1 日

平成 18 年 8 月 11 日付けで第三者評価の実施をお申込みいただいた[特別養護老人ホーム長生園]につきましては、第三者評価結果に基づき、下記のとおりアドバイスをいたしますので、今後の事業所の運営及びサービスの提供に役立ててください。

### 記

<p>評価が高かった点</p>	<p><b>I 健全な組織体制</b>                  (2)組織体制 ④支援体制の充実/ 併設の診療所の医師の週間診療状況が充実して、施設と密接に連携されています。</p> <p>(3)②ストレス管理/ 勤務表の「計画年休消化制度」や職員互助会の旅行への法人から補助金制度があり、福利面で職員を支援しておられます。</p> <p>(5)人材の確保・育成 ①質の高い人材の確保/ 現職には資格取得報償制度があり、新卒採用は介護福祉士有資格者を原則採用とされています。</p> <p><b>Ⅲ利用者保護の観点</b>                  (2)情報提供 ④地域への情報公開/ 4階に地域交流スペースや体験研修宿泊室等が整備され、地元の民生委員や現場実習の学生さんに提供されています。</p>
<p>理 由</p>	<p><b>I (2)④</b>                  全館で340名を超える入居者にとって、施設内で医療をすぐに受けられることは大きな安心です。内科・精神科・整形外科の他に皮膚科も診療されており、看護師も夜勤に入っておられ、充実した配置をされています。</p> <p>(3)②                  90名を超える介護スタッフが、等しく計画的に年休を利用できるように、各主任が苦心して勤務を組んでおられます。</p> <p>(5)①                  法人による介護福祉士・社会福祉主事資格取得のための補助があり、試験および研修、さらにスクーリング費用の補助もされています。</p>

	<p>Ⅲ (2)④ 平成13年に大改築された6階建ての総合施設の中にある研修スペースや宿泊室は、落ち着いて快適に研修に打込める立派な設備です。今後、多様な使用方法が期待出来ます。</p>
<p>改善努力を要する点</p>	<p>I 健全な組織体制 (5)人材の確保・育成 ②継続的な研修の実施/ 初任者内部研修が休止中になっているのは残念です。</p> <p>II 適正なサービス提供体制 (2)個別援助計画 ④スタッフの意見の集約/ ケアカンファレンスは適宜なされていますが、ケアプラン書類を拝見した範囲では、直接に日々の介護にあたる担当の介護スタッフのかかわりや意見の反映がやや弱いと思われました。</p> <p>(3)利用者等の希望尊重 ②希望を引き出す働きかけ/ 1階の仏間の近くに「お気軽相談室」が設置されていましたが、最近はあまり利用がないとお聞きしました。 各フロア単位でも、個別でも利用者の潜在的ニーズを引き出す試みが多様な方法で可能ではないかと思われまます。</p>
<p>努力を要する点の理由</p>	<p>I (5)② 施設または法人で新任研修、中堅研修、リーダー研修等を系統的に実施して、職員のスキルアップをはかることは、ケアの向上に必要なことです。まず初任者研修の再開が望まれます。</p> <p>II (2)④ 施設ケアマネ、相談員、介護主任の視点のみならず、日々直接に担当している介護職員の視点でその人の生活の全体像を捕らえて、プランに反映させていくことが重要です。</p> <p>(3)② 施設のハード面では大変優れた広い立派な建物であり、利用者の満足度は高いと思われまます。240名もおられる特養入居者の個々のニーズは多様ですので、どれだけ個々の思いに添ったサービスを提供出来るか、ニーズ把握の仕組みが必要です。</p>

具体的なアドバイス

I (5)②

例えば、従来されていた研修の担当者は、通常の業務ラインとは別に新任者研修業務を中心に、その任務を特養に限定せずに、施設全館を対象にして推進されるように分担するという方法もあります。

また、1階のデイサービスセンターで実施しておられる職員への個別指導・個人の課題設定・見直し等のシステムを、特養にも広げていくために、あるリーダーが組織的に全館の職員育成のそういったシステムの導入に専念するというやり方も考えられます。これらの任務分担について、施設種別を超えて法人の指導のもとに全館一体のものとして実施することが有効ではないでしょうか。

II (2)④

ケアプランやカンファレンス資料の作成の過程で、施設ケアマネと相談員の受持ちケース数や内容の範囲等を分担して、直接介護職員も記述したり、発言する場をつくるという方法もあります。

もちろん本人およびご家族の意向を第一に尊重しながらも、その人の生活援助の課題をより具体的にケアプランが機能していくことが重要です。

(3)②

50年の歴史ある施設であり、旧措置者も過半数おられる状況で、農山村の地域性や職業歴等を踏まえた生活空間のしつらえ、例えば草花や小動物にふれることが出来たり、少人数での語らい・くつろぎの場といったユニット的な環境をセットして、あらためて入居者の満足度把握ができたり、外出や墓参等の個々のニーズの再発見があったりするのではないのでしょうか。

また、関連するIV(1)④苦情に基づくサービスの改善(2)①利用者満足度の把握の項目の実施状況が、やや不足のため自己評価Bにされていますように、アンケートや直接聴取りや入居者懇談会や家族懇談会等の方法を施設の年間スケジュールに組込むことも一方法です。

そして、苦情やご意見・要望等をQCサークルとは別に、全体的なサービス向上に結びつける、サービス向上会議のような場にて検討されることが望まれます。

とても美しく清潔に広く整備された居室や廊下・ホールの空間に、その入居者の生活歴と暮らしの息吹が感じられるとさらに素晴らしい生活施設になるのではないのでしょうか。

(様式6)

## 評価結果対比シート

事業所番号	2671500102
事業所名	特別養護老人ホーム長生園
サービス種別 (複数記入可)	介護老人福祉施設・通所介護
評価機関名	京都市老人福祉施設協議会事業センター

大項目	中項目	小項目	評価項目	評価結果		
				自己評価	第三者評価	
I 健全な組織体制	(1)組織の理念・運営方針	① 理念の周知と実践	組織の理念が、利用者及びスタッフ等に周知され、法人の理事長及び事業所の管理者等（以下、「責任者等」という。）を含むスタッフ全員が、理念に沿ったサービスの提供を実践している。	A	A	
		② 運営方針の周知と実践	事業所の運営方針が、利用者及びスタッフ等に周知され、責任者等を含むスタッフ全員が、運営方針に沿ったサービスの提供を実践している。	A	A	
		③ 運営規程の遵守	事業所の運営規程が、利用者及びスタッフ等に周知され、責任者等を含むスタッフ全員が、運営規程に沿った事業所の運営及びサービスの提供を実践している。	A	A	
	(2)組織体制	① 責任者等の協働	責任者等は、介護サービスの質の向上に熱意を持ち、事務所の運営について、スタッフと共に取り組んでいる。	A	A	
		② 管理者による状況把握	管理者は、事業の実施状況等を把握し、いつでもスタッフに対して具体的な指示を行うことができる。	A	A	
		③ 透明性の確保	責任者等は、公正・適切なプロセスで意思決定を行い、組織としての透明性の確保を図っている。	A	A	
		④ 支援体制の充実	利用者の主治医や医療機関・介護保険施設との間で、連携体制又は支援体制が確保されている。	A	A	
	(3)労働環境	① 労働環境への配慮	質の高い介護サービスを提供することができるよう、スタッフの労働環境に配慮している。	B	B	
		② ストレス管理	スタッフの業務上の悩みやストレスを解消するために、具体的な取組みを行い、業務の効率を高めている。	B	A	
		③ 休憩場所の確保	スタッフが充分に休むことができ、心身を休めることができる休憩場所を確保し、必要な設備・備品を備えている。	A	A	
	(4)課題の設定	① 重点課題の設定	外的環境の変化や傾向を見極めた上で、事業の運営における重点課題が設定され、組織全体として課題の達成が図られている。	B	B	
		② 業務レベルにおける課題の設定	各業務レベルにおいて課題が設定され、スタッフ全員が課題の達成に取り組んでいる。	A	A	
	(5)人材の確保・育成	① 質の高い人材の確保	スタッフの採用時において、質の高い介護サービスを提供できる人材の確保を主眼としている。	A	A	
		② 継続的な研修の実施	採用時研修・フォローアップ研修等を実施しており、スタッフは、段階的に必要な知識や技能を身につけることができる。	B	B	
		③ OJTの実施	スタッフが業務を通じて日常的に学ぶことを推進しており、スーパーバイズ（指導・助言）を行う体制がある。	B	B	
	小 計(A=2点、B=1点、C=0点として点数化のこと)				25	26

大項目	中項目	小項目	評価項目	評価結果		
				自己評価	第三者評価	
II 適正なサービス提供体制	(1)サービスの品質の確保	① 業務マニュアルの作成	事故防止や安全確保を踏まえた業務マニュアルが作成され、スタッフに活用されている。	B	B	
		② サービス提供に係る記録	利用者の状況及びサービスの提供状況等が適切に記録されており、サービス提供を円滑に行うための工夫がされている。	A	A	
		③ 確実な情報伝達	スタッフ間の申し送りや情報伝達を確実に行うとともに、重要な事項については、全てのスタッフに伝わる仕組みとなっている。	A	A	
		④ ケアカンファレンス	定期的又は必要に応じてケアカンファレンス（介護検討会）が開催され、意見交換が行われている。	A	A	
	(2)個別援助計画	① アセスメントの実施	利用者一人ひとりの心身の状況や生活状況、利用者及びその家族の希望等を踏まえたうえでアセスメントを行っている。	A	A	
		② 個別援助計画の作成	アセスメントに基づき、利用者一人ひとりの目標を明らかにした個別援助計画を作成している。	A	A	
		③ 専門家等に対する意見照会	個別援助計画の策定に当たり、必要に応じて利用者の主治医・OT/PT・介護支援専門員・他のサービス事業所等に意見を照会している。	A	A	
		④ スタッフの意見の集約	個別援助計画の策定に当たっては、当該利用者に関わる全てのスタッフの意見を採り入れており、共通認識に基づく目標達成が図られている。	B	B	
		⑤ 個別援助計画の見直し	定期的又は必要に応じて、個別援助計画の見直しを行っている。	A	A	
	(3)利用者等の希望尊重	① 利用者・家族の希望尊重	個別援助計画の策定及びサービスの提供内容の決定に際して、利用者及びその家族の希望を尊重している。	A	A	
		② 希望等を引き出す働きかけ	利用者やその家族が、希望や要望、気掛かりなこと等をスタッフに気軽に伝えたり、相談できる機会を確保している。	B	B	
	(4)衛生管理	① 感染症の対策及び予防	感染症の対策及び予防に関するマニュアルの作成等により、スタッフ全員が感染症に関する知識をもってサービスの提供を行っている。	A	A	
		② 事業所内の衛生管理等	施設（事業所）内における物品等の整理・整頓及び衛生管理を行い、効率的かつ安全なサービスの提供を行っている。	A	A	
	(5)危機管理	① 事故・緊急時等の対応	事故や緊急時等における対応等を定めたマニュアルがあり、年に1回以上、必要な研修又は訓練が行われている。	A	A	
		② 事故の再発防止等	発生した事故等に係る報告書や記録を作成し、事故の再発の防止のために活用している。	B	B	
	小 計(A=2点、B=1点、C=0点として点数化のこと)				26	26

大項目	中項目	小項目	評価項目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ 利用者保護の観点	(1)利用者保護	① 人権等の尊重	利用者の人権や意思の尊重について、常に問題意識をもってサービスの提供を行っている。	A	A
		② プライバシー等の保護	利用者のプライバシーや羞恥心について、常に問題意識をもってサービスの提供を行っている。	B	B
		③ 個人情報保護	利用者の個人情報の保護及び職務上の守秘義務について、スタッフに徹底している。	A	A
		④ 利用者の決定方法	サービス利用者等の決定を公平・公正に行っている。	A	A
	(2)情報提供	① 事業所情報等の提供	事業所の概要及びサービス内容について、利用者やその家族にわかりやすく説明を行っている。	A	A
		② 利用者に係る情報交換	サービス利用時の状況について家族に情報提供を行い、家族から家庭での状況について情報を得る等、情報交換を行っている。	A	A
		③ 開示請求への対応	利用者やその家族から、提供を受けたサービスの内容や費用の明細等について情報開示の請求があった場合には、適切に対応している。	A	A
		④ 地域への情報公開	事業所の運営理念を地域に対して啓発・広報するとともに、事業所の機能・知識等を地域社会に提供している。	A	A
	(3)利用契約	① 料金の明示と説明	介護サービスの利用に際して必要となる料金について、根拠を明らかにして利用者にわかりやすく説明している。	A	A
		② 合意書面の作成	サービスの提供開始に当たっては、利用者及び事業者双方の権利・義務を明らかにし、合意の結果を契約書等として書面にしている。	A	A
小 計 (A=2点、B=1点、C=0点として点数化のこと)				19	19

大項目	中項目	小項目	評価項目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅳ サービスの質の向上の取組	(1)苦情解決	① 苦情・相談窓口の明示	利用者からの苦情や相談を受けつける窓口及び担当者等が明示され、利用者及びその家族に周知されている。	A	A
		② 苦情やトラブルへの対応	苦情やトラブルがあった場合には、組織として迅速かつ誠意をもって対応している。	B	B
		③ 第三者への相談機会の確保	公的機関等の窓口相談や苦情を訴えるための方法を、利用者及びその家族に周知している。	A	A
		④ 苦情に基づくサービスの改善	利用者からの苦情をサービスの向上に役立てている。	B	B
	(2)質の向上に係る取組	① 利用者満足度の把握	利用者の満足度を把握し、サービスの質の向上に役立てている。	B	B
		② 質の向上に対する検討体制	サービスの質の向上に係る検討体制を整備し、責任者等を含むスタッフ全員が積極的に参加している。	B	B
		③ 評価の意義についての周知	サービス評価を行うことの意義及び評価結果をサービス改善に活かすことが、責任者等を含むスタッフ全員に周知され、理解されている。	B	A
	(3)評価の実施	① 自主点検の実施	京都府が各事業所に配布している「自主点検表」を活用して、年に1回以上、自主点検を行っている。	A	A
		② 自己評価の実施	事業所の体制及びサービスの内容に係る自己評価を定期的又は必要に応じて行い、自らが提供するサービスの質の改善に役立てている。	A	A
		③ 第三者評価の受け入れ	客観的なサービス水準の把握のために第三者評価を受け、評価結果を積極的に公表している。	A	A
小 計 (A=2点、B=1点、C=0点として点数化のこと)				15	16

【大項目ごとの点数】

大項目	自己評価	第三者評価結果
I 健全な組織体制	25	26
II 適正なサービス提供体制	26	26
Ⅲ 利用者保護の観点	19	19
Ⅳ サービスの質の向上の取組	15	16

【達成率換算表】

大項目	達成率			
	自己評価		第三者評価	
I 健全な組織体制	25/30	83%	26/30	87%
II 適正なサービス提供体制	26/30	87%	26/30	87%
Ⅲ 利用者保護の観点	19/20	95%	19/20	95%
Ⅳ サービスの質の向上の取組	15/20	75%	16/20	80%

